

「市民参加推進力」指標による 市民参加推進計画の進捗管理について

令和4年10月21日

令和4年度の市民参加推進力指標の審議（予定）

（令和4年度を通して）

- ・ 市民参加推進力指標の活用方法を確定（第3期市民参加推進計画や市民参加関連事業などの分析・評価）
- ・ 市民参加推進力指標の試行的な評価の実施

（各回の予定）

第2回 市民参加推進力指標の活用方法に係る審議

- ・ 市民参加推進力指標の活用方法（ロジックモデルを組み入れた市民参加推進計画の分析・評価方法など）
- ・ その他積残し案件（指標名等）

第4回 市民参加推進力指標を活用した市民参加推進計画の施策の試行的な評価

- ・ 1～2施策をロジックモデルを活用して試行的に分析・評価

第3期市民参加推進計画のロジックモデル

別紙「ロジックモデルを活用した第3期市民参加推進計画の進ちよく管理の方法について」による説明

市民参加推進力の定義（指標部会で導き出した定義と考え方）

（定義）

市民参加推進力は、市民参加における参加と協働を進める力で、市民参加推進計画の「重視する視点」と13の「施策」を進めることで市民参加推進力の向上を図るもの。

（考え方）

- ・ 市民参加推進計画の「目指す未来像（行政運営の理念）」の実現を目指すことから、未来像の表現「参加と協働により、豊かで活力のある地域社会の実現」から導出
- ・ 市民参加を後押しするもの。計画の達成を目指した施策の総和の結果、市民参加推進力の向上が図られる。
- ・ 市民参加推進力は、行政だけでなく、市民、事業者、大学等、地域の皆が、市政参加とまちづくりにおいてこの力の向上を目指すもの
- ・ 誰か特定の方を評価するわけではなく、京都市全体の市民参加の健康診断のようなもの。

市民参加推進力指標で測るもの（市民参加推進計画の進ちょく）

「目指す未来像」
（行政運営の理念）

「目指す地域社会の姿」
（ビジョン）

市民参加推進力指標

市民参加推進力の向上については、市民参加推進計画の3つの「重視する視点」と13の施策の進ちょくを測ることで確認。

（指標の考え方）

- ・ インプット（資源の投入）に対するアウトカム（実績，成果）を測る。
- ・ 市民の活動が向上した結果，伸び率を測る。
- ・ 指標を考える前提として，課題を設定することが重要
- ・ ロジックモデルを用いて，解決すべき課題の仮説を立てて，そこから目標を立てる。

これらを測る指標を設定

基本方針 1：市民との未来像・課題の共有
→ 3 施策で推進

基本方針 2：市民の市政への参加の推進
→ 5 施策で推進

基本方針 3：市民のまちづくり活動の活性化
→ 5 施策で推進

計画を着実に進めるための推進体制

→ 13 施策を進める 3 つの取組

本計画期間 5 箇年の「重視する視点」

- ・ 重視する視点 1
「学び」や「信頼」をはぐくむ対話の推進
- ・ 重視する視点 2
次世代につながる市民参加の裾野の拡大
- ・ 重視する視点 3
協働による課題解決への挑戦

市民参加推進力を構成する力：3つの「重視する視点」の指標

指標名はそれぞれ仮置き

重視する視点1 ▶ 「学び」や「信頼」をはぐくむ対話の推進

あらゆる主体が、つながり、共に行動し、持続・発展するには、各主体が対等の立場で、安心して対話することにより、情報を共有し、共に学び合い、信頼し合えるようにします。

⇒ まちの課題共感力

重視する視点2 ▶ 次世代につながる市民参加の裾野の拡大

多様な市民一人一人が、一歩踏み出し、主体的に取り組めるよう、子ども・若者をはじめ、より多くの方が市民参加しやすい仕組みづくりやきっかけづくり、学ぶ機会の創出など、次世代につながる、市民参加の裾野を更に広げていけるようにします。

⇒ まちの育成力

重視する視点3 ▶ 協働による課題解決の挑戦

多様化、複雑化する課題の解決に向けて、課題も含めて行政の情報をオープンにし、組織や立場、分野や世代を越えて、多様な主体が参加し、知恵と力を結集し、協働して実践する、挑戦できる仕組みをつくります。

⇒ まちの課題解決力

指標への置き換え： 1 3 施策の指標（アウトカム）

	市民参加推進計画の施策	指標(アウトカム：施策を推進することで目指す状態)	視点
市民との共有	施策 1 到達を重視する情報発信	市政の動きや社会・地域課題を実感として受け止められ、理解が進んでいる	育 成 力
	施策 2 信頼や学びにつながる「市民と職員との対話」の推進	信頼が基盤にある対話が活発に行われている	共 感 力
	施策 3 共創のための「多様な主体の対話」の推進	多様な主体による自由な発想での対話が活発に行われている	共 感 力
市政参加	施策 4 市政参加の機会の充実	様々なかたちでの市政参加が進んでいる	解 決 力
	施策 5 誰もが参加しやすいデザイン	参加が気軽に親しみやすくなり、参加者の多様性が増している	共 感 力
	施策 6 協働の成果や手ごたえの共有	参加と協働の手ごたえが感じられている	解 決 力
	施策 7 次世代につながる市政参加	新たな参加者への広がりが見られている	育 成 力
	施策 8 協働する市政分野の拡大と新たな挑戦	多様な主体の知恵と力が生かされている	解 決 力

指標への置き換え： 1 3 施策の指標（アウトカム）

	市民参加推進計画の施策	指標(アウトカム：施策を推進することで目指す状態)	視点
まちづくり活動	施策9 まちづくりに取り組むきっかけづくり	まちづくり活動を知る機会，学びやつながりの場が身近に感じられている	育 成 力
	施策10 SDGsを背景とした多様な主体の参画促進	新たな主体との新たな協働の動きが進んでいる	解 決 力
	施策11 地域コミュニティ活性化への支援	住民同士のつながりが増し，地域コミュニティが活発に活動している	育 成 力
	施策12 持続可能なまちづくりを支援する仕組み	行政の支援，市民同士の支え合いなど，活動が社会全体で支えられている	育 成 力
	施策13 多様な主体の協働による社会課題解決への挑戦	多様な主体が手を組みまとまりながら課題解決に取り組んでいる	解 決 力

共感力：まちの課題共感力
 育成力：まちの育成力
 解決力：まちの課題解決力

※ 1 3 施策の各施策は3つの力の複数に関連するが便宜上1つに位置付けています。

重視する視点と施策の指標の構成

- ・ 市民参加推進計画の13の「施策」を3つの「重視する視点」で整理
- ・ 13施策から導き出された指標を向上させることで3つの力も向上
市民参加推進力

まちの課題共感力

- ・ 信頼が基盤にある対話が活発に行われている②
- ・ 多様な主体による自由な発想での対話が活発に行われている③
- ・ 参加が気軽に親しみやすくなり、参加者の多様性が増している⑤

まちの育成力

- ・ 市政の動きや社会・地域課題を実感として受け止められ、理解が進んでいる①
- ・ 新たな参加者への広がりが見られている⑦
- ・ まちづくり活動を知る機会、学びやつながりの場が身近に感じられている⑨
- ・ 住民同士のつながりが増し、地域コミュニティが活発に活動している⑪
- ・ 行政の支援、市民同士の支え合いなど、活動が社会全体で支えられている⑬

まちの課題解決力

- ・ 様々なかたちでの市政参加が進んでいる④
- ・ 参加と協働の手ごたえが感じられている⑥
- ・ 多様な主体の知恵と力が生かされている⑧
- ・ 新たな主体との新たな協働の動きが進んでいる⑩
- ・ 多様な主体が手を組みまとまりながら課題解決に取り組んでいる⑫

※○数字は施策番号

第2期市民参加推進計画の進捗管理方法

【評価・分析方法】

- ・ 19施策のうち実績の把握が可能な1～10施策を対象に実施
- ・ 各施策の推進例（施策に1～5つあり）ごとに京都市の実績と実績に対する市の認識を提示（実績とは、例えばSNSのアカウント、HPのビュー数、託児対応の審議会数、印刷物のユニバーサルデザイン対応割合など）
- ・ 上記の材料をもとに施策の進捗等について審議

第2期計画の振り返りの方法

施策1 市民との情報共有の推進

施策の推進例

- 市民しんぶん等の広報物や、ホームページ、SNS、スマートフォンアプリを活用するとともに、民間メディアと積極的に連携するなど、より多くの市民に届く多様な方法で市政やまちづくりの情報を発信
- あらゆる主体が、京都市が保有する様々なデータを、京都のまちの現状把握や課題分析など、まちづくりの推進につながる様々な用途の素材として活用できるよう、オープンデータを推進

施策4 市政やまちづくりを「自分ごと」、「みんなごと」と感じられる情報提供の工夫

施策の推進例

- 附属機関等の非公開の会議など、内容を公開できない会議等についても、可能な限り議論の要旨等を公開

	京都市の実績	現状認識
ポータルサイト、SNS、アプリ等による情報発信	➢ 政令指定都市（20都市）のSNSでの情報発信状況（H30.7月） ① 京都市は、 「アカウント数の合計」 1 番目、 「フォロワー数の合計」 4 番目に多い 「1 アカウントあたりのフォロワー数」13 番目 ② フェイスブックのアカウント数> ツイッターのアカウント数 ➢ 「みんなでつくる京都」HP及びSNSの状況（関連情報：別紙1-1） ① ホームページの月間ページビュー数（H30.7月）：224 ② フェイスブックのフォロワー数（H30.8月）：896 ③ ツイッターのフォロワー数（H30.8月）：241 ➢ 京都市情報館のリニューアル（H29.12月実施） ① スマートフォン対応 ② デジタルブック（電子書籍）導入 ③ 自動翻訳導入：英語、中国語（簡体字・繁体字）語	➢ 公式SNS「京都市情報館」では、1日に多くの情報を発信することによるフォロワー離れを防ぐため「1日1更新」を目標に更新。 ➢ アカウント数が多く、フォロワーが分散している反面、多岐にわたってきめ細やかに情報発信を行っている。 ➢ ページビュー数は少しずつ増加しており継続して情報発信していく。
オープンデータの推進	➢ 「京都市オープンデータポータルサイト」への掲載（H30.11月） ①データセット数：275 ②個別データの数：9,079	➢ 今年度は、データセット数20件増を目標としており、現時点で、12件増加。 ➢ 都市によってデータセットの取扱いが異なり、数字上の比較は困難。（先進都市である鯖江市のデータセット数は約200）

事業の実施状況や今後の方針を記載

施策に関連する事業の成果（アウトプット）を提示

【委員意見（抜粋）】
（オープンデータについて）

- ・個票ではなく集計結果しか見られないのでは、公開されていないのと同じではないか
- ・数を追うよりは質的な変化を追ったほうが有益だ。
- ・京都市が特に劣っているわけではなく、これを機に積極的に公開するべき。

施策5 市政への参加の仕組みのユニバーサルデザイン化

施策の推進例

- 傍聴可能な会議や説明会、ワークショップ等において、子どもと一緒に参加できる工夫、休日など参加しやすい時間帯でも開催、参加しやすい場所の工夫、通訳や要約筆記の整備、磁気誘導ループ（ヒアリングループ）の使用等を推進
- 市政や市政参加の情報発信における文章について、UDフォントの使用や点字資料の作成、多言語化など、誰もが読みやすい工夫を実施

	京都市の実績	現状認識
傍聴可能な会議等での、市政参加の仕組みのユニバーサルデザイン化	➢ 託児、要約筆記、手話通訳を用意したワークショップ及び附属機関等の会議（H29年度） ① 託児：附属機関等の会議 2 / 203 ワークショップ 9 / 19（各区まちづくりカフェ事業11含む） ② 要約筆記：附属機関等の会議 3 / 203 ワークショップ 4 / 19（各区まちづくりカフェ事業11含む） ③ 手話通訳：附属機関等の会議 4 / 203 ワークショップ 4 / 19（各区まちづくりカフェ事業11含む）	➢ 子育て中でも参加できる工夫、手話通訳や要約筆記の整備について、庁内に向けて、積極的に周知する必要がある。 ➢ 要約筆記、手話通訳は、庁内向けのホームページで利用方法について詳しく掲載し、利用を呼びかけている。 ➢ 託児、要約筆記、手話通訳をすべての審議会等で設ける必要があるかなど、市民協働推進担当で考え方を整理する必要がある。
市政情報の発信における、誰もが読みやすい工夫	➢ 印刷物における、ユニバーサルデザイン（UD）対応状況（H29年度）（関連情報：別紙1-2） 1万部以上発行の印刷物のうち、何らかのUD対応をしている割合 70% 何らかのUD対応をしている印刷物：104 1万部以上発行している印刷物：148 ➢ 「やさしい日本語」に関する取組状況 ① 「やさしい日本語」を採り入れている取組 ・自治会加入啓発チラシ（H28.8月作成） ・京都市防災ポータルサイト「京都市防災危機管理情報館」、「京都市帰宅支援サイト」（H29.4月～） ② その他関連する取組 ・「分かりやすく伝えるための手引き」作成（H30.4月発行） ・「はぐくみ支え合うまち・京都ほほえみプラン」における「わかりやすい版」の作成（H30.3月発行） ・「やさしい日本語」をテーマにした研修の実施	➢ 1万部以上発行の印刷物のうち、何らかのUD対応をしている割合について100%を目指している。 ➢ 庁内会議を通じた周知徹底、担当者向けの研修の実施等により、さらに庁内での意識向上を図る。

【委員意見（抜粋）】

- （ユニバーサルデザイン化について）・外国人が増える中、大切な視点である。
- ・傍聴可能な会議が少ないが、時代の流れにあわせて増やしていくべきだ。
- （誰もが読みやすい工夫について）・災害があった際に、外国人や旅行者にとっては避難情報が学区単位で分かりにくいという声がある。
- ・外国人、旅行者についてはツイッター等を活用することも考えられる。

参 考 資 料

これまでの振り返り：市民参加推進計画の記載

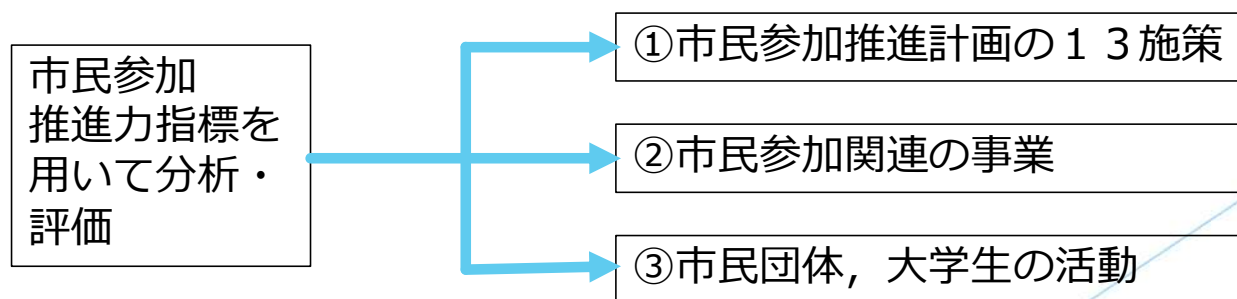
- ・ 第3期市民参加推進計画では、「第3章 第3期計画の考え方」において、「市民力」の向上について、「市民と共に、定性的かつ多面的な分析/評価」を行うことなどを記載
- ・ また、「1 理想像の実現に向けた進捗確認」において、「市民力」は、「測ることの難しい大きな価値そのもの」としつつも、計画の着実な推進に向けて「市民力」の向上の評価についても、～議論を継続」と記載
- ・ 市民参加推進フォーラムでは、市民参加推進計画で掲げる未来像の実現に向けて、計画に基づく取組の課題や改善点について議論（毎年度、計画の進捗を評価）

第3期計画に記載されている「市民力」について、検討を実施

市民参加推進力指標の活用方法

前回の議論及び並木委員からの提案を踏まえ、

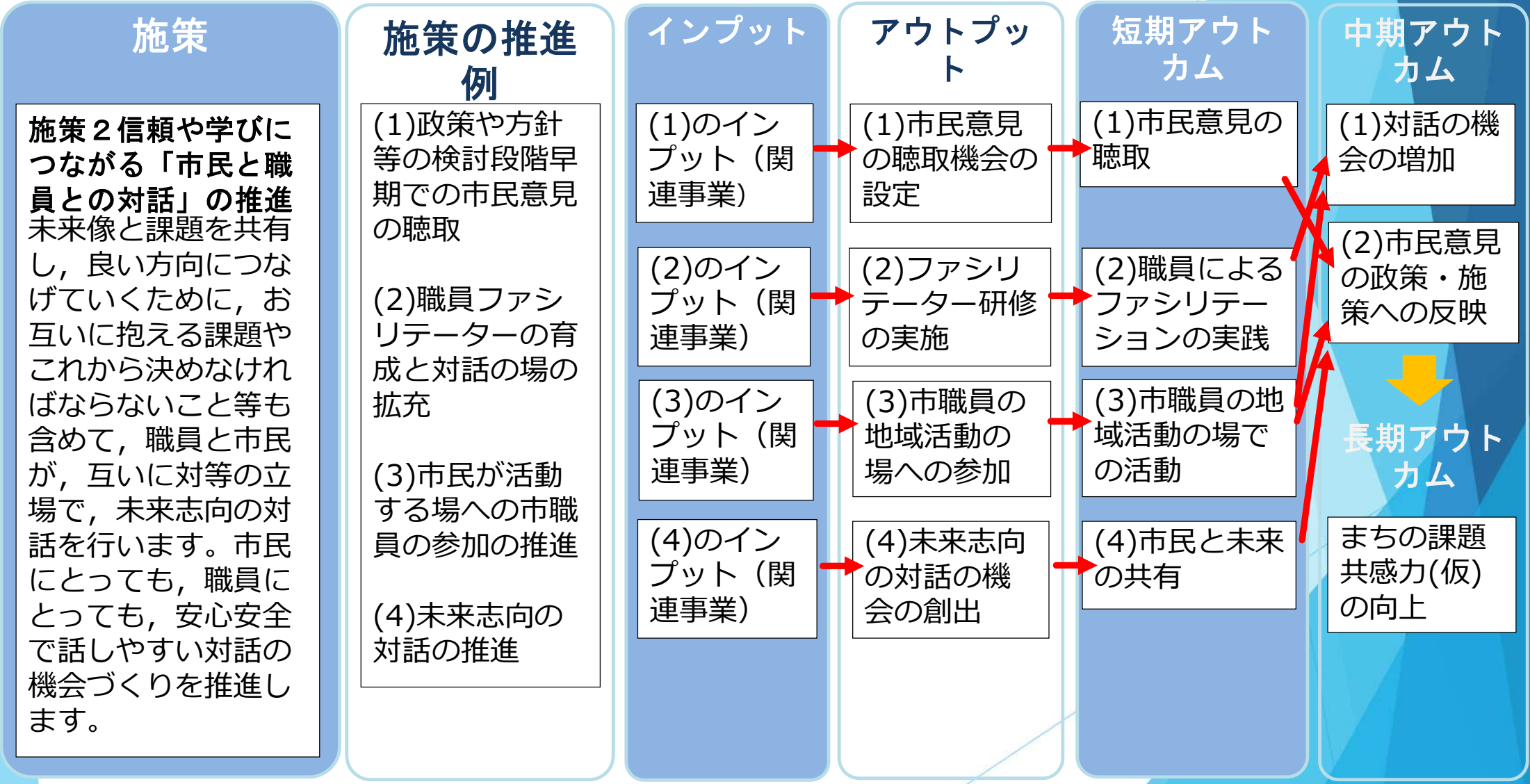
- ① 市民参加推進力指標を用いて、京都市市民参加推進計画の施策の進捗を分析する。フォーラムにおいて計画の進捗管理として用いる。
- ② 指標を用いて、市民参加に関する事業を分析する。市民参加を進めている事業の優れた点等を導き出し、他の市民参加関連事業の参考として、市全体の市政参加・まちづくり活動の促進を図る。
- ③ 地域で活動をされる団体や、大学生が参画するゼミ・活動団体などにおける、市政参加やまちづくり活動について、指標の視点で評価・分析することでサポートする。（申し出があれば）



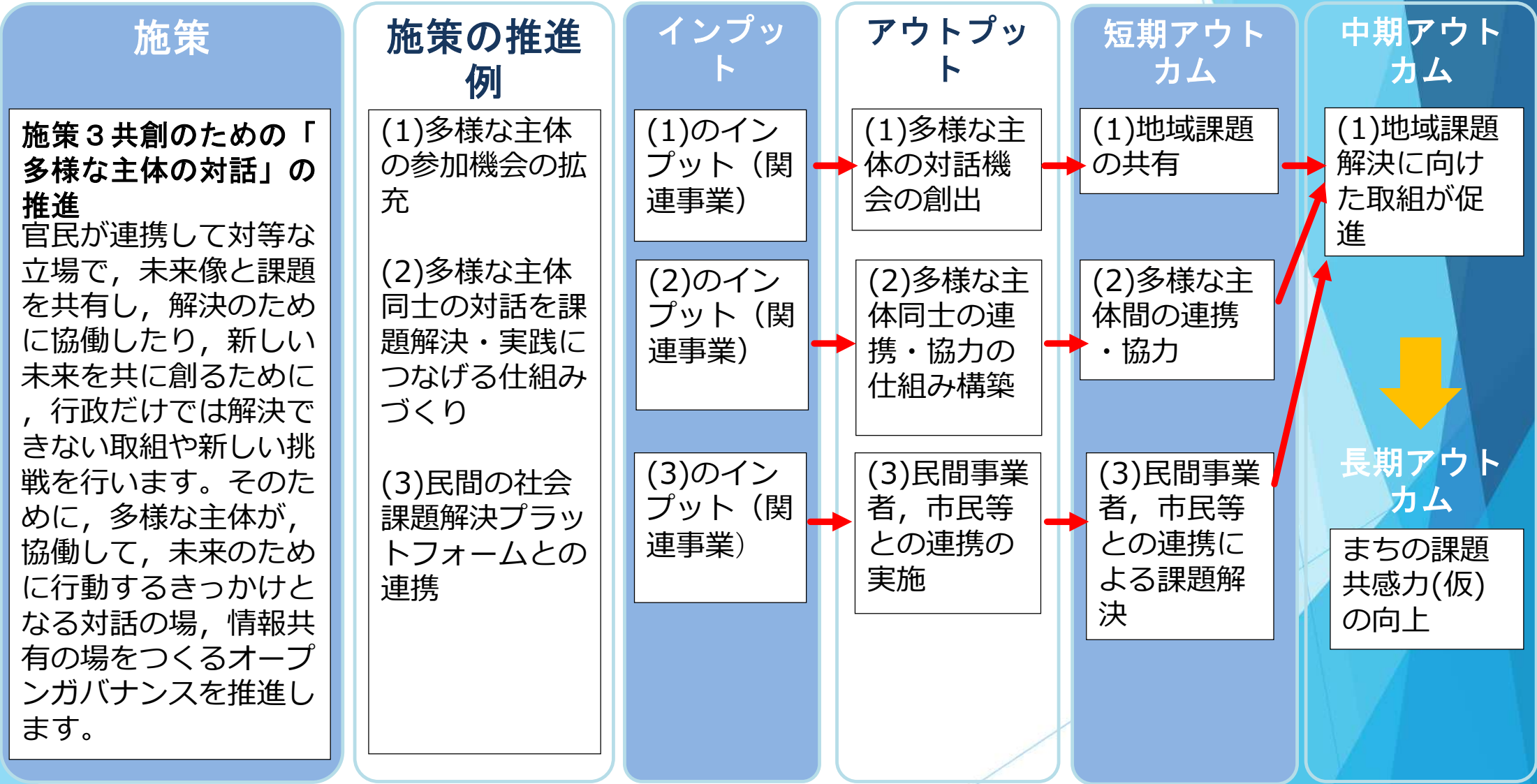
市民参加推進力指標の活用方法：計画の施策の進捗管理

- ①市民参加推進計画の施策を分析・評価する。（R 4 年度以降に 1 3 施策を分割して市民参加推進フォーラムで審議）
- ・ フォーラムで評価するために、対象施策のロジックモデルを作成
（施策の主な事業，ステークホルダー，インプット，アウトプット，アウトカムなどの各項目について提示）
 - ・ 作成したロジックモデルがきちんと市民参加推進力の向上につながっているかを分析・評価
（施策の実施状況について，3つの市民参加推進力の観点で評価・分析）
 - ・ フォーラムの意見を庁内で共有して，施策・事業推進の参考として活用

市民参加推進力指標の活用方法：施策のロジックモデルの例



市民参加推進力指標の活用方法：施策のロジックモデルの例



市民参加推進力指標の活用方法：市民参加事業の分析

- ② 指標を用いて、市民参加に関する事業を分析する。R 4 年度以降に市民参加に関する事業をフォーラムで分析し、意見を所管課にフィードバックするとともに、優れた事例を庁内に周知することで市民参加関連事業の底上げ効果を図る。
- ・ 市民参加推進計画に係る事業のうち、うまく進んでいる事業を選び出して、ロジックモデルを作成
 - ・ できればステークホルダー等の意見も収集し、市民参加推進力の観点から事業を分析し、うまくいっている点や課題などを洗い出す。
 - ・ 事業所管課へのフィードバックを行いつつ、うまく行っている点は優良事例として庁内に周知し他の事業が改善されることで、市民参加推進力の向上を図る。

市民参加推進力指標の活用方法：市民や大学生の活動のサポート

- ③ 地域で活動をされる団体や、大学生が参画するゼミ・活動団体などにおける、市政参加やまちづくり活動について、指標の視点で評価・分析することでサポートする。
- ・ 地域の自主的な活動団体や大学生が参画するゼミ・活動団体から、自ら行う市政参加やまちづくり活動の分析・評価の依頼を受け、フォーラムの中で活動内容を説明してもらう。
- ・ 活動内容の改善や活動の促進、活動領域の拡大など、より活発な活動につなげられるよう、ロジックモデルや市民参加推進力指標を用いて分析・評価する。